* 平成28年度　学校教育自己診断の結果について

【生徒について】

≪エンパワメントスクールの取組みについて≫

* モジュール授業やエンパワメントタイムに対する生徒の評価は比較できる前年度のデータは無いが、肯定的な回答がそれぞれ59.4％、44.4％となっており、目標としていた70％には到達していない。凡そ3人に2人くらいの肯定的な回答をめざして70％としたが、今後は中期的な目標としてめざしていく数値とする。エンパワメントタイムは、内容や作業等が通常の授業とは異なるため、取り組む意義が生徒にとって分かりにくいものであったかもしれないが、キャリア教育等の観点から大きな意味を持っており、生徒の興味・関心を高めながら意義が伝わるものとしたい。一方でモジュール授業において半数以上の生徒が肯定的な回答を行っていることは、大きな成果であると考えている。

≪生徒指導について≫

* 「遅刻指導があるので、自分自身の遅刻が減っていると思う。」「将来のことを考えると頭髪・服装指導は必要だと思う。」など、生徒指導に対する生徒の肯定的な回答は5割を下回っている。しかしながら、「先生は、自分が努力したことを認めてくれたり、ほめてくれたりする。」や「いじめやそれに近いことが起こった時にきちんと対応してくれる。」「気軽に相談できる先生がいる。」など、教員に対する肯定的な意見は増加している。

【保護者について】

* 保護者の肯定的な意見は、学校行事やPTA行事への参加に関する項目以外はすべて増加している。引き続き、家庭の理解を得ながら、連携して粘り強く生徒の指導・支援を行っていきたい。また、学校行事やPTA行事については、行事予定や活動の様子などをWebページの「岬高校だより」等により伝えて行く。

【教員用について】

* 「わかる授業」に向けた取組みや遅刻指導、頭髪・服装指導に関する項目が減少している。昨年度と比較して大きく後退しているわけではないが、教員が思ったように取り組めておらず、自身が描く理想像に遠いことから、肯定的に評価できないということではないかと考えている。「授業におけるICTの活用」や「授業方法等について検討する機会を積極的にもっている。」「生徒の健康の保持増進にしっかり取り組んでいる。」は増加している。
* 「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている。」「学校運営に教職員の意見が反映されている。」が大幅に減少している。今年度エンパワメントスクールとなり、1年生の始業時間が早まったことで、朝の連絡会への参加可能な教員数が減少し、運営の方針が伝わりにくかったことや様々な取組みについて事後の説明が多かったことが背景にある。今後、学年会や生徒指導関係等の会議を利用し、方針や取組みなどをしっかり伝達していきたい。